

回復期リハビリテーション病棟と 老健施設で 働いて感じたこと



小林和浩 [こばやし・かずひろ]
介護老人保健施設博愛荘(岩手県)
リハビリテーション科 統括主任

はじめに

近年、診療報酬改定において、医療・介護の連携、切れ目のないリハビリテーションサービスの提供、地域包括ケアシステムの確立などのメッセージが強く掲げられてきました。

入職して約25年間、医療法人社団帰厚堂の医療施設で回復期リハビリテーション病棟を中心に勤務し、医療側から医療・介護の連携などに取り組んできました。2022年5月より現所属の老健施設に配属となり、今度は介護側でそれを実践していくこととなりました。振り返ると回復期に携わるなかで行ってきた、医療・介護の連携、切れ目のないリハビリテーションサービスの提供などは本当に円滑に進んでいたのだろうかという疑問に思うこともあります。

拙い文章ですが、私が回復期リハビリテーション病棟と老健施設で働いてみて率直に思うこと、医療と介護の連携やこれから強化していきたいことなどを素直に書いてみたいと思います。最後までご一読いただければ幸いです。

施設紹介

当施設は岩手県紫波郡矢巾町しわ やはばちようにあり、町の人口は約2万7千人で高齢化率は27.8%です。

母体法人である「医療法人社団帰厚堂」は、1978年に南昌病院を開院。1979年には「社会福祉法人」を設立し、急性期から回復期、生活期へとスムーズにリハビリを継続していくための施設を開設してきました。さらに2013年には、矢巾町の地域包括ケアシステムの構築をめざして、「医療福祉多機能ビル/ケアセンター南昌」を開設。6階建ての施設には15の事

業所等が入り、診療所等による医療提供のほか、居宅や訪問など24の介護サービスを提供しています。

ケアセンター南昌内にある「介護老人保健施設博愛荘」(入所定員93名、通所リハビリ定員50名)は超強化型を取得し、個別リハビリを週3回、入所から3か月以内の方は週6回リハビリを実施しています。リハビリ専門職は10名(理学療法士6名、作業療法士4名)。私は主に通所リハビリで勤務しています。

感じたこと、経験したこと

1. 比較すべきデータは？

一般社団法人回復期リハビリテーション病棟協会では、FIM利得や平均在院日数など、さまざまな全国平均データを公表しているため、自施設データと比較し、強み弱みを知ることができました。介護保険においては、LIFEにより現在取り組み中であると思いますが、自施設と比較するデータが少なく、強み弱みを客観的に知ることが難しい状態と感じています。

2. 回復期リハビリテーション病棟退院の後サービスにつながるのが当たり前？

退院後は、通所リハビリ・訪問リハビリ・通所介護などのサービス利用につながっているのが当たり前と思っていたのですが、通所リハビリを紹介された利用者は、「退院後に在宅で生活していたが動きが悪くなり…」あるいは「退院後に活動機会が少なく…」という方が一定数おりました。健常高齢者や要支援者が介護予防に積極的に参加していることを考えると、退院者の生活パターンを想定した予後予測を行い、活動能力が落ちる前に取り組みを行う必要があると感じています。